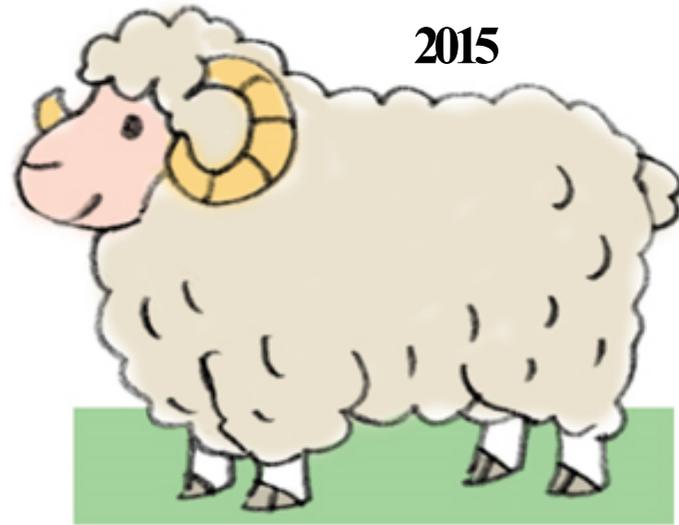


インターネット俳誌／SEIGETU

清月

4中の出句 17名 延べ650句

2015



第177号 平成27年 4月

題詠俳句について

ゆたか

俳句は①題詠②吟行（囁目）③日常生活④心境の表現などにより作られます。

今月は、①の題詠についてお話しします。題詠には、兼題と席題の二つがあります。

兼題は、前もって季題が一つ〜三つが示されていて、参加者がその季題に思いを巡らせて作る俳句のことです。多くは、句会後に主宰や世話人から次回の兼題が示されます。

席題は、句会当日発表される季題です。作句時間を見込んで締切時間より早く会場に入り句を作ります。多くは、会場に当季の題一つ〜三つぐらいの掲出と題となった草花や果実が置かれたりします。

これら題詠は、自身の季題に関わる経験や思い出を呼び起こして、季題が十分働くように句を作ります。

季題を働かせるには、季題（主部）に一句の半分・その他（述部）に一句の半分の意を持たせるぐらいにしてまとめればよい句が生まれるものと思います。

一般的に題詠は、空想力を働かせすぎると抽象的な安定感の無い駄句となります。

題詠に当たっては、これまでの自身の経験の中から最も印象に残っている事柄でまとめられると安定感のある格調高い句が生まれるものと思います。

この題詠は、経験則に乗っ取って作句しますので、高齢者や俳句歴の長い人ほど有利となつてきます。また初心者に取っては、よい勉強の場となります。

以上

目次

近詠	ゆたか	2
雑詠選	ゆたか	3
寸感	ゆたか	9
互選集計結果報告	高点句・高点者	10
互選一〇句の披講	幹夫 恵山 睦夫 よし子	11
	しゆじ 宏一 省司 美琴	12
順一		13

近詠

野田ゆたか

吹き交はす船笛 朧月朧
 就中落花舞ひ散る嵐山
 通学の子ら覗きゆく蝌蚪の水
 釣人の群るる突堤暮かぬる
 清水の舞台浮かびて花の波

雑詠

(大字は秀句)

ゆたか選

レガツタの声真つ直ぐに濔二線 岡山 橋本幹夫
 御利益は回向柱に御開帳 同
 腹見せて眠る愛犬サイネリア 同
 春あかつきポンドに權の雫かな 同
 末つ子は気儘に生きて芝桜 同
 庄屋跡都忘れの咲満る 千葉 清水恵山
 刈り進み飛び立つ雉の巢は近し 同
 啄みて千鳥素早く巢へ走る 同
 道草や岩に海胆割る下校の子 同
 崩されてまた組立てる花筏 同

種袋振ればにぎやか音たてて 岐阜 石崎そうびん
 観音の慈悲享く湖北鳥帰る 同
 あれこれで伝はる二人のどかなり 同
 芹摘めば雫煌めき散りにけり 同
 カフエラテのハートの模様あたたかし 同
 菜の花の彼方に夷隅無人駅 千葉 田村公平
 給油所の天井高く初燕 同
 荒磯に落つる果て迄耕せり 同
 鳥帰る単身赴任の我を置き 同
 アルバムに生きる友あり春惜む 同
 花見船潜るなにはの橋幾つ 吹田 池下よし子
 竹の秋だあれもゐない美術館 同
 かくれんぼ子の丈超ゆるつつじ咲く 同

むらさきの愁ひこころやリラの花 吹田 池下よし子
 春の 駅 膝に 小 さ き 旅 靴 同
 雨粒のきらり零るる朝ざくら 三重 後藤允孝
 巢作りの藁しべ運びゆく雀 同
 洞窟の狭き岩風 呂燭おぼろ 同
 円やかな紅茶の香りスイートピー 同
 初めての真白き名刺風光る 同
 山肌 風 の 道 あり 山 躑 躅 大阪 木村宏一
 穏やかも激しくもあり 飛花落花 同
 なからぎの道に枝垂れて花と人 同
 朝刊の音耳にして朝寝かな 同
 行過ぎて思い出したる木瓜の花 同
 歓声のホールインワン風光る 鳥取 瀬尾睦夫

点滴のゆつくり落ちて春夕焼 鳥取 瀬尾睦夫
 しばらくは見入るばかりや花明り 同
 閉ざされし窓を開くるや若葉風 同
 親子して同じ寝姿 春の 宵 同
 付き添ひの妻ある安堵夕桜 静岡 渡邊春生
 旅立ちの 躍る 心 や 花 筏 同
 接骨木の花や過疎地の小学校 同
 どこへやら行く先知らず花筏 同
 樹木医に撫ぜられてゐる糸桜 同
 花水木途切れて交差点曲がる 愛知 石川順一
 菜種梅雨 今日 は 一 日 曇り 空 同
 くどい程鐘が臙の夕間暮れ 同
 鉢植えの桜満開 幟 立つ 同

春風や旗巻きあげて留まらず 愛知 石川順一
 満天星の花にきらりと雨雫 千葉 筒井省司
 健歩計数值停滞菜種梅雨 同
 鶯や啼いて参道案内せり 同
 花筏流れまかせの着き離れ 同
 飛花落花落ち着く先は風まかせ 同
 洗われて緑輝く春野かな 三重 山口美琴
 心地よき風に乗りゆく花吹雪 同
 大根の花咲き誇る一反畑 同
 火渡りの健康祈願春まつり 同
 生国の水は豊かに蝌蚪の国 島根 白根鈴音
 ふらここを漕ぎ出す空の青さかな 同
 両の手にはじまる色や桜貝 同

初蝶や風に吹かれて横つ飛び 大阪 森戸しゆじ
 生き急ぐことなく老いて春の宵 同
 ぶらんこを漕ぐ音させて姉妹 愛知 駒田暉風
 斑でも芝の芽吹きや鳥の声 同
 アネモネやフラメンコにも似し衣装 山梨 志村万香

寸感

ゆたか

レガッタの声真つ直ぐに漚二線 幹夫
漚手八人と舵手一人が乗るエイト競漚は、
くつきりとした水尾を残す。

力強く直進する艇の水尾が美しく拡がり
やがて消えてゆく景が美しく見えてきます。
艇の動きが上手く捉えられている。

庄屋跡都忘れの咲満る 恵山

流罪の貴人が、見ていると都を忘れると
言つた多年草の都忘れと対峙している作者。
この花と庄屋址の栄枯盛衰を重ね合わせ
て思いを馳せると一抹の淋しさを覚える。
花の名の謂われをも上手く句に取り入れ
られている。

種袋振ればにぎやか音たててそうびん
種袋を振るとその存在感を主張するよう
に種粒が賑やかに音を立てたという作者。
種を蒔く時期の到来の喜びと種の結実へ
の期待感が明るく心地よく伝わってきます。
種袋の本質が端的に詠まれている。

菜の花の彼方に夷隅無人駅 公平

無人駅が多い房総半島の「いすみ鉄道」
沿線と千葉県の花としての菜の花の景色。
晴天の日の一面の菜の花の中にあるこぢ
んまりとした無人駅の景が見えてきました。

房総の景が見事に詠み取られている。

花見船潜るなにはの橋幾つ よし子

この時期、大阪の大川では花見船が運航
され造幣局の桜など兩岸の桜を楽しめる。
また船内では飲酒・喫茶・食事なども楽
しめ、花見の醍醐味の一つともなっている。

行間に時間経過が上手く込められている。

雨粒のきらり零る朝ざくら 允孝

雨粒は、雨中・雨後にありますが、雨後
の明るい雨粒として鑑賞しました。

朝のひんやりとした空気の中にきらりと
光り落ちる雨粒を観て詩情を感じられた作
者。

雨粒の美しさが見事に表現されている。

互選一〇句の集計結果 互選者九人

高点句

五点 庄屋跡都忘れの咲き満る 清水恵山
四点 雨粒のきらり零る朝ざくら 後藤允孝
四点 風光るゴルフ大会老い集ふ 山口美琴

高点者

十三点 橋本幹夫
十一点 清水恵山
九点 後藤允孝
九点 田村公平

互選一〇句

橋本幹夫選

老いてなほ我が人生の桜かな 木村宏一
散る花の岸辺の船に琴の鳴る 清水恵山
轉りや谷瀬をまたぐ大吊橋 瀬尾睦夫
健歩計数值停滞菜種梅雨 筒井省司
朝寝して夢の謎解きつなぎけり 後藤允孝
ふらここを漕ぎ出す空の青さかな 白根鈴音
米朝の葬列長し鳥雲に 池下よし子
大根の花咲き誇る一反畑 山口美琴
白藤の花房濡らす川飛沫 渡邊春生
サザエさんまれに笑点みなうらら 田村公平

互選一〇句

清水恵山選

山肌に風の道あり山躑躅 木村宏一
あれこれで伝はる一人のどかなり 石崎そうびん
夏近し古城に騒ぐ松の風 橋本幹夫
公園の砂さらさらと夏近し 池下よし子
風光るゴルフ大会老い集ふ 山口美琴
三舟山近くて遠い春霞 筒井省司
鳥帰る单身赴任の我を置き 田村公平
付き添ひの妻ある安堵夕桜 渡邊春生
老い深め杖に込めたる遍路道 後藤允孝
歓声のホールインワン風光る 瀬尾睦夫

互選一〇句

森戸しゆじ選

斑でも芝の芽吹きや鳥の声 駒田暉風
レガッタの声真つ直ぐに漣二線 橋本幹夫
花見船潜るなにはの橋幾つ 池下よし子
心地よき風に乗りゆく花吹雪 山口美琴
庄屋跡都忘れの咲満る 清水恵山
荒磯に落つる果て迄耕せり 田村公平
旅立ちの躍る心や花筏 渡邊春生
雨粒のきらり零るる朝ざくら 後藤允孝
しばらくは見入るばかりや花明り 瀬尾睦夫
生国の水は豊かに蝌蚪の国 白根鈴音

互選一〇句

木村宏一選

舌下錠溶けて息つく戻り寒 石崎そうびん
御利益は回向柱にご開帳 橋本幹夫
むくむくと山動くかに木の芽吹く 池下よし子
心地よき風に乗りゆく花吹雪 山口美琴
庄屋跡都忘れの咲満る 清水恵山
鳥帰る单身赴任の我を置き 田村公平
旅立ちの躍る心や花筏 渡邊春生
雨粒のきらり零るる朝ざくら 後藤允孝
轉りや谷瀬をまたぐ大吊橋 瀬尾睦夫
生国の水は豊かに蝌蚪の国 白根鈴音

互選一〇句

瀬尾睦夫選

生き急ぐことなく老いて春の宵 森戸しゆじ
穏やかも激しくもあり飛花落花 木村宏一
ぶらんこを漕ぐ音させて姉妹 駒田暉風
種袋振ればにぎやか音たてて 石崎そうびん
花水木途切れて交差点曲がる 石川順一
腹見せて眠る愛犬サイネリア 橋本幹夫
花見船潜るなにはの橋幾つ 池下よし子
心地よき風に乗りゆく花吹雪 山口美琴
庄屋跡都忘れの咲き満る 清水恵山
付き添ひの妻ある安堵夕桜 渡邊春生

互選一〇句

池下よし子選

生き急ぐことなく老いて春の宵 森戸しゆじ
山肌に風の道あり山躑躅 木村宏一
レガッタの声真つ直ぐに漣二線 橋本幹夫
大根の花咲き誇る一反畑 山口美琴
真青なる空や大地の麦青む 清水恵山
満天星の花にきらりと雨雫 筒井省司
付き添ひの妻ある安堵夕桜 渡邊春生
雨粒のきらり零るる朝ざくら 後藤允孝
歓声のホールインワン風光る 瀬尾睦夫
ふらここを漕ぎ出す空の青さかな 白根鈴音

互選一〇句

筒井省司選

諳んじて駅名言う子春日陰 田村公平
桜散る宴たけなわの青シート 池下よし子
庄屋跡都忘れの咲満る 清水恵山
御嶽に煙ひとすじ桃の花 石崎そうびん
付き添ひの妻ある安堵夕桜 渡邊春生
火渡りの健康祈願春祭り 山口美琴
潮騒を空に集めて浅蜩搔く 橋本幹夫
菜種梅雨今日は一日曇り空 石川順一
洞窟の狭き岩風呂燭おぼろ 後藤允孝
菜の花や青春の日の京言葉 瀬尾睦夫

互選一〇句

山口美琴選

穏やかも激しくもあり飛花落花 木村宏一
あれこれで伝はる一人のどかなり 石崎そうびん
花水木途切れて交差点曲がる 石川順一
潮騒を空に集めて浅蜩搔く 橋本幹夫
花見船潜るなにはの橋幾つ 池下よし子
庄屋跡都忘れの咲満る 清水恵山
鶯や啼いて参道案内せり 筒井省司
旅立ちの躍る心や花筏 渡邊春生
雨粒のきらり零るる朝ざくら 後藤允孝
轉りや谷瀬をまたぐ大吊橋 瀬尾睦夫

互選一〇句
 石川順一選
 ごみ箱を伏せて廃校花吹雪く 田村公平
 連日の電球切れや菜種梅雨 同
 隔日の雨遠ざかり春深し 同
 一片は最上階に花吹雪く 同
 寄居虫や挟みで測り宿替へる 清水恵山
 古巣から骨材運ぶ鴉かな 同
 アネモネはむらさき君は朝帰り 橋本幹夫
 レガッタの声真つ直ぐに濡二線 同
 またしても墓の勧誘四月馬鹿 池下よし子
 接骨木の花や過疎地の小学校 春生

インターネット俳句 清月
 第177号
 平成27年4月中の出句から

発行
 平成27年5月20日

主宰 兼 編集
 野田ゆたか

発行所
 枚方市 大阪清月庵



清月俳句会のホームページ
<https://haiku575.info/seigetukai/home/homu.htm>